



令和7年度 学校だより

つなぐ

翠輝学園 つくば市立
みどりの南小学校
第31号
発行日 R7.10.10

令和7年度 学校教育に関するアンケート（保護者）自由記述より

前号では、保護者アンケートの結果について、昨年度の結果と比較しながらご報告しましたが、「ご意見、ご感想等」もいただいております。貴重なご意見ですので、教職員にも周知するとともに、検討してまいります。ありがとうございました。

これらについては、回答も含め、何回かに分けて報告いたします。なお、内容については簡潔にまとめさせていただきました。今後、少しずつ回答させていただく予定です。



【ご意見・ご感想について】

◆学校の取組への感謝について

多くの保護者の皆様から感謝のお言葉を頂戴しました。本当にありがたく、教職員の励みになります。この場を借りて御礼申し上げます。今後も努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

◆授業についていけないこと・教員のフォローが十分でないことについて

子供たちが毎日、学校で多くの時間を過ごすのは「授業」です。その授業についていけないことは、その子にとって辛いことです。本校の教職員はグランドデザインの目指す児童の姿③『「できた、わかった、もっとやってみたい」と思える』に向け、児童が一人残らず、その姿に近づけるよう努めています。しかしながら、授業についていけない子供たちへのフォローは十分とは言えない面もあります。

そこで、学校では「授業改善」に取り組んでいます。学校教育の中で、安心・安全の次に重要なことだと考えています。そこで、開校2年目の今年度は「授業づくり」に重点を置き、様々な施策を進めています。以下にその一部をご報告します。（今後、少しずつお知らせしていきます）

授業についていけない場合、どのようにフォローしていくか（1） 授業改善に向けて

現在「授業改善」のための方策の一つとして、子供たちの「学力の基盤調査（たつじんテスト）」の実施に向けて準備を進めています。この調査は、いわゆる学力テスト（全国学力テスト、県学力診断テスト）では分からない、「子供のつまずきがどこにあるのか」、つまり子供の理解の仕方やつまずきの原因を見取るための調査（テスト）です。以下は、他県の児童に対して行った、問題とそのつまずきの例です。（※）

【調査問題】子どもが14人、1れつにならんでいます。ことねさんの前に7人います。ことねさんの後ろには何人いますか。

（※解答用紙には「式」と「図」を書くスペースと、「答え」を書くスペースがあります）

【つまずき】（一部抜粋）

①問題の意味が理解できない。（式： $14 \times 7 = 98$ 答え：98人 図なし）◎計算はできていますが…

②図は描けるが、式が書けない。（式： $14 - 7 = 7$ 答え：7人 図

過去の調査の学年別正答率は、3年生が28.4%、4年生が53.4%、5年生が72.3%で、かなりの子が間違いました。

大切なのは、「できなかった」で終わるのでなく、「なぜ分からないのか」を分析することです。誤答例を分析すると、様々なつまずきがあることが分かります。

すべてのつまずきには理由があるので、子供がどんなつまずきをしているのかを分析することで、そのためにどんな指導や支援をしていけばよいかを考え、日々の授業に活かすことが必要です。

現在、この調査を開発した慶應大学の今井むつみ先生と打合せをさせていただき、授業についていけない子へのフォローに役立てるために準備を進めています。なお、この調査は有料のため、教育支援費より支出させていただく予定です。（※調査問題とつまずきは、今井先生の資料より）

